

★ 侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生に警戒してください！！ ★

国内のモモ、ウメ、サクラなどで侵入害虫クビアカツヤカミキリが発生し、その被害が拡大しています。平成30年5月11日現在、本種は、徳島県、大阪府、愛知県、東京都、埼玉県、栃木県及び群馬県の7都府県で発生が確認されています。京都府内で本種の発生は確認していませんが、隣接する大阪府では、ウメ、サクラで発生が確認されています。今後、京都府内でも発生する可能性がありますので、発生に十分警戒してください。

- 1 作物名 モモ、ウメ、カキ、サクラなど
- 2 病虫害名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)
- 3 警戒地域 府内全域
- 4 生態及び被害状況（詳細は別添啓発資料「侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください！」をご参照ください。）
 - (1) 幼虫がモモ、ウメ、サクラなどの生木の内部に食入・加害することで樹勢を低下させます。
 - (2) 幼虫は、樹幹内で2～3年かけて成長、蛹となります。
 - (3) 樹を加害する際には、うどん状（ミンチ状）のフラス（木くず）を排出します（写真1）。
 - (4) 我が国の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に脱出します。
 - (5) 成虫（写真2）の体長は、約2.5～4センチ。全体的に光沢のある黒色で胸部（首部）が赤色であることが大きな特徴です。
 - (6) 寄主植物として、モモ、ウメ、サクラ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、セイヨウスモモ、ザクロ、コナラ、ヤナギなどが確認されています。
- 5 防除対策（詳細は別添啓発資料「侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください！」をご参照ください。）
 - (1) 樹幹をよく観察し、フラス（木くず）が確認された場合（4～10月頃）には、成虫の発生する時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。
 - (2) 成虫を見つけた場合は捕殺します。
 - (3) 幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎます。伐倒した樹は直ちに焼却もしくはチップ化し、切り株は抜根などにより処理を行います。
 - (4) 登録薬剤を用いて防除します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、薬液が幼虫に十分かかるようにします。
 - (5) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、成虫の発生時期（6～8月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを樹幹に巻き付け、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺します。
- 6 その他
 - (1) ほ場やサクラにおいて本種を見つけた場合には、直ちに病虫害防除所（電話：0771-23-9512）などの指導機関までご連絡ください。
 - (2) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）

や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照してください。

(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)

表1 クビアカツヤカミキリの登録薬剤（平成30年5月11日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	使用回数	農薬の総使用回数	
もも	3A	ロビンフッド	カミキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内	フェンプロバトリンを含む7回以内（噴射は2回以内、散布は5回以内）	
		ベニカカミキリムシエアゾール						
うめ		ロビンフッド						
		ベニカカミキリムシエアゾール						
かき		ロビンフッド						
		ベニカカミキリムシエアゾール						
果樹類（注1）		ロビンフッド	クビアカツヤカミキリ		食入部にノズルを差し込み薬剤が食入部から流出するまで噴射	—	6回以内	フェンプロバトリンを含む6回以内
		ベニカカミキリムシエアゾール						
さくら		ロビンフッド	クビアカツヤカミキリ		木屑排出孔を中心に薬液（100倍液）が滴るまで樹幹注入	—	6回以内	メタフルミゾンを含む6回以内
		ベニカカミキリムシエアゾール						
	22B	アクセルフロアブル						

注1：かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちよう（種子）、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき（種子）を除く

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee（殺虫剤抵抗性対策委員会）が取りまとめた分類コード



写真1 クビアカツヤカミキリのうどん状（ミンチ状）のフラス



写真2 クビアカツヤカミキリの成虫（浦野忠久博士（森林総合研究所）提供）